

国際協力事業について(案)

I. 化学物質の内分泌かく乱作用に関する日英共同研究について

1. 経緯

平成11年3月のG8環境大臣会合において、内分泌かく乱化学物質について日英両国間で共同研究を実施することが合意され、5カ年の日英共同研究事業が開始された。平成16年度(2004年)には、日英両国間の協議により、さらに5年間の延長を決定し、第2期(~2009年)の日英共同研究として、4つのテーマを設定して研究を推進した。

さらに、平成20年10月の第10回日英共同研究ワークショップにおいて日英共同研究を延長することの合意を受けて、第11回ワークショップにおいて、2009年から5カ年の継続についての合意文書への調印を行い、平成22年度から第3期目の日英共同研究を実施してきた。

平成26年11月の第16回ワークショップにおいて、日英共同研究を2015年からさらに5年間継続することに合意し、平成27年4月に、本事業の継続に関する合意文書に調印した。

令和元年11月の第21回ワークショップにおいて、令和2年度以降も日英共同研究を継続することに合意し、本事業の2020年4月から5年間を目途として、第5期共同研究を実施することについて日英間で合意し、以下の内容の合意文書に調印した。

- 対象領域を従来の「化学物質の内分泌かく乱作用を有する物質(EDC)」に「新たな懸念となる汚染(contaminants of emerging concern(CEC))」を加えることにより拡張した。
- 共同研究課題は、従来同様4課題を設定し、人健康保護の視点も考慮することとした。
- 研究協力に加え、行政間の連携、協力を強化することとした。

2. 第5期日英共同研究について

第5期の日英共同研究では、第21回日英共同ワークショップにおける日英の研究者による議論等を踏まえて、新たに設定した以下の4つのコアプロジェクトのもとで調査や研究を推進している。

コアプロジェクト-1

EDC及びCECの処理排水及び環境中での挙動の推定に関する研究並びにそれらの環境への排出を削減するための方法に関する研究

コアプロジェクト-2

EDC及びCECのスクリーニングのための様々な分子メカニズムの解析、*in vitro*のスクリーニングシステムの開発及び各作用メカニズムに関連する遺伝子改変魚の確立に関する研究

コアプロジェクト-3

水生生物及びその他の生物種の生殖、発生及びそれらへの複合的な影響を理解するための化学物質の試験における様々なエンドポイントの評価に関する研究

コアプロジェクト-4

EDC及びCECの野生生物の個体群への影響の推定並びに他の化学物質やストレスとの複合的な影響を含む野生生物に対する環境リスクの解析に関する研究

3. 令和3年度の実施内容について

令和3年度は、第22回日英共同研究ワークショップでの検討結果等を踏まえて、各コアプロジェクトにおいて、令和2年度に引き続き、調査・研究を実施している。

また、第23回化学物質の内分泌かく乱作用に関する日英共同研究ワークショップを11月29日（月）及び30日（火）の2日間、ウェブ会議として開催した（日本より22名、英国より72名が参加）。ワークショップでは、日英両国の研究担当者による研究成果の発表及び意見交換並びに行政担当者による情報交換等を行うとともに、今後の協力関係の進め方等について協議した。